



先週
の
ドル
円

Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

先週
の
相場
概況

2日

週末に米国が対中制裁関税「第4弾」を発動し、中国がすかさず報復措置を取ったことから両国の対立懸念が高まり、週明け早朝のオセアニア市場でドル円は一時105.91円まで値を下げた。一巡後は106.40円まで買い戻しが入ったものの、ダウ先物が大幅に下落したことが嫌気されて106.05円近辺まで押し戻されるなど方向感がなかった。

3日

8月米ISM製造業景気指数が低調な内容だったことで株安・米長期金利低下が進み、ドル円はつれる形で一時105.71円まで値を下げた。

4日

香港政府が「逃亡犯条例」改正案を撤回し、英下院で「合意なき離脱」を阻止する離脱延期法案が可決され、伊では連立政権が樹立するなど目先のリスク要因が解消されたことで全般リスク・オンの動きとなった。ドル円は一時106.44円まで上値を伸ばした。

5日

米中が10月前半に通商協議を再開するとの報道が伝わるとドル円は株高とともに上昇。NY時間に発表された米経済指標が相次いで強い内容だったことも買いを促し、一時107.23円まで上げ幅を広げた。

6日

8月米雇用統計で非農業部門雇用者数が予想を下回ったことを背景にドル円は一時106.6円まで値を下げた。パウエルFRB議長がスイス・チューリッヒでの討論会で「米経済は良い状態にあり、インフレも目標の2%に戻っていきだろう」などと述べると106.90円台まで買い戻しが入った。

総括

先週のドル円は底堅い動きとなった。米中による関税合戦が重しとなったうえ、軟調な米ISM製造業景気指数を受けて週前半には105.71円まで値を下げた。ただ、その後は香港情勢や英伊政局に対する不安後退でショートカバーが優勢となった。米中通商交渉再開への期待感も重なり、一時107.23円まで買い上げられた。

先週の注目された経済指標結果

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値	結果
3日	13:30	火	AUD	RBA政策金利	*	*	1.00%		1.00%	1.00%
3日	23:00	火	USD	ISM製造業指数	*	8月	51.2		51.1	49.1
4日	23:00	水	CAD	BOC政策金利	*	*	1.75%		1.75%	1.75%
5日	21:15	木	USD	ADP雇用統計	前月比	8月	15.6万人	14.2万人	14.9万人	19.5万人
5日	23:00	木	USD	ISM非製造業指数	*	8月	53.7		54.0	56.4
6日	21:30	金	CAD	新規雇用者数	*	8月	-2.42万人		1.50万人	8.11万人
6日	21:30	金	USD	NFP	前月比	8月	16.4万人	15.9万人	15.8万人	13.0万人

一言コメント・・・週明けのISM製造業指数が低調となったことでドル売りが先行しましたが、5日のADP雇用報告やISM非製造業指数が予想を上回ったことが分かるとドル買い戻しが進みました。ただ、週末の米雇用統計でNFPが予想を下回ると再びドル売りが優勢となりました。

先週の注目された要人発言

4日00:34 ミュラー・エストニア中銀総裁「債券買い入れ再開の強い論拠ない」
 4日04:07 ビルワッドガロー仏中銀総裁「ECBには債券購入再開の選択肢が常にあるが、今すぐ再開する必要があるかどうかは疑問」
 4日05:50 ブラード米セントルイス連銀総裁「FRBは50bp利下げすべき」
 4日06:16 ジョンソン英首相「総選挙実施に向けた動議を提案」「10月15日の早期総選挙を提案」
 4日17:55 ラガルドIMF専務理事「非伝統的金融政策の負の側面に留意すべき」「インフレ率は依然として低迷しており、量的金融緩和策が必要」「ユーロ圏経済は、リスクに直面している」
 4日18:56 林鄭香港行政長官「逃亡犯条例改正案を撤回する」
 4日20:36 中国国务院「景気支援で預金準備率の引き下げを活用」「中国は慎重な金融政策を維持」
 4日23:00 BOC声明「カナダ経済は潜在的状態に近く、インフレは目標を達成している」
 5日16:23 中国商務省報道官「米中会合は実質的進展を目指す」
 6日13:36 黒田日銀総裁「マイナス金利の深堀りは従来から示している4つのオプションに必ず入っている」
 7日01:47 パウエルFRB議長「米経済は良い状態にある」「景気見通しに著しいリスクがある」「FOMCは適切な行動を継続する」「FRBは景気拡大を持続させるため適切な行動をする」

一言コメント・・・先週は各国要人発言や各国当局声明などを受けて、合意なきブレグジットの可能性低下、香港情勢の好転、イタリアの政局不安後退、米中貿易協議の進展期待の高まりなどを背景に投資家のリスク志向が改善し世界的に株価が反発。為替市場ではドル円やクロス円が買い戻される展開となりました。

今週の経済指標

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値
11日	21:30	水	USD	PPI	前月比	8月	0.2%		0.1%
12日	08:50	木	JPY	機械受注	前月比	7月	13.9%		-9.0%
12日	20:45	木	EUR	ECB政策金利	*	*	0.00%		0.00%
12日	21:30	木	EUR	ECB総裁会見	*	*	*	*	*
12日	21:30	木	USD	CPI	前月比	8月	0.3%		0.1%
13日	21:30	金	USD	小売売上高	前月比	8月	0.7%		0.2%
13日	23:00	金	USD	ミシガン消費者態度指数(速)	*	9月	89.8		90.5

今週の注目は・・・ECB理事会

週刊マーケットアナリシス 会員専用版レポート

会員サイトログイン後のページで
ご確認ください

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のGI24コメンテーターの一言
 - 荻野金男
 - 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
 - 今井雅人
 - よろずのつぶやき

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。